

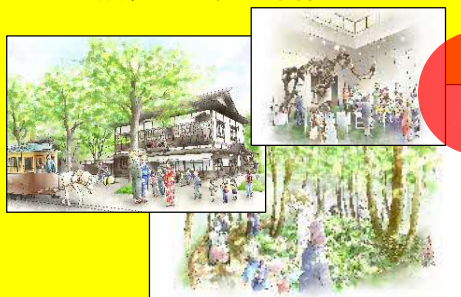
野幌森林公園エリアの活用の方向性 (エリア活性化に向けた具体的な検討事項)

1 活用の方向性（イメージ）の検討 [別紙]

- 『ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想』や文化資源の保存、活用に関する最近の国の動向を踏まえ、「野幌森林公園エリア」が有する北海道の歴史、文化、自然の継承、地域の賑わいの拠点として活用される場を目指す。
- そのため、エリア全体を「観光、食(賑わい)」「地域、道民(還元)」といった視点から、また民間活力等の活用も視野に入れ、活用の方向性(イメージ)を整理。

- 交流空間構想 -

エリア全体を対象に、歴史、文化、自然を五感で「体感」し国内外から訪れる多くの人々と交流できる賑わいのある空間。



- エリア活用の方向性 -

- 具体的な活用イメージを全体的な視点を踏まえて検討し、有識者から意見聴取。
- エリア全体の魅力を増進し、一日楽しめる空間を目指す。

観光、食(賑わい)

地域、道民(還元)

民間活力の活用等(資金・ノウハウ)

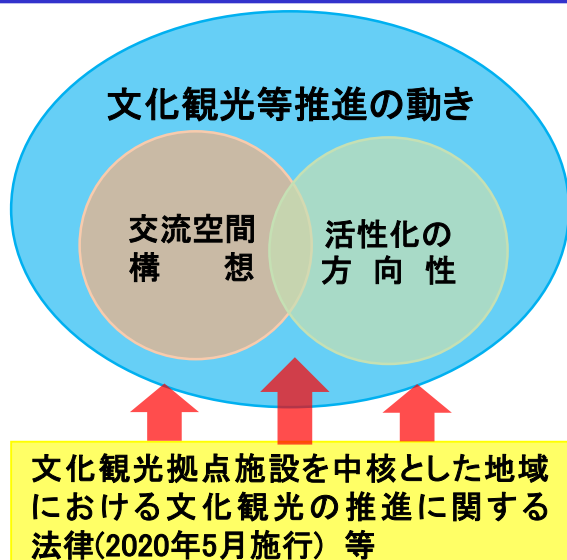
「有識者懇談会」を設置し意見聴取

石森秀三(座長/北海道博物館)、角幸博(歴史地域資産研究機構)、金子正美(酪農学園大学)、天池風太(ニトリホールディングス)、菅井研(アトリエ・モリヒコ)、生川幸伸(北海道観光振興機構)、中島宏一(北海道歴史文化財団)

構成員

個々の施設の計画等に反映

2 エリア活性化に向けた取組の考え方



- 「構想」「方向性」の実現に向けて -

- 「構想」「方向性」の内容は、開拓の村の「利活用方針(仮称)」等の個別計画へ反映。
- 実現にあたっては、必要な予算が確保されるよう、国における文化振興と観光振興を一体的に推進する動き等も踏まえ、
 - ・ 従来制度(地方創生拠点整備交付金等)
 - ・ 文化観光推進法に基づく国支援
 - ・ 民間活力(資金、ノウハウ)
 の積極的な活用を検討。

3 実現に向けた進め方

- 既存の制度や予算で対応可能なものは、順次、取組を進める。
- 文化観光推進法に基づき国からの支援を得られるよう、地域計画を策定し、国へ提出。
(「構想」「方向性」の実現に向けた取組を反映する方向で検討し、計画期間は5年を目処とされている)。
- 開拓の村の展示建造物等の有効活用や民間活力の導入(展示建造物の一棟貸し、専門業者による食堂・売店の管理・運営等)については、ほっかいどう応援団会議等のスキームの活用をはじめ、現指定管理者との調整や文化財としての価値、耐震性、持続可能性等の検討も必要。